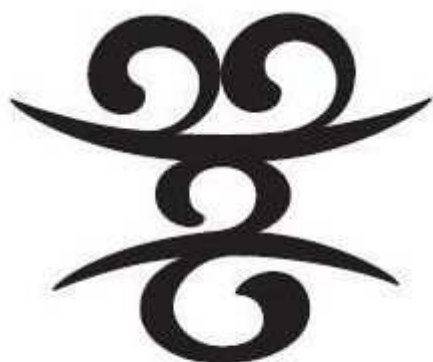


愛知県立芸術大学 F D 活動報告書

令和 4 年度



愛 知 県 立 芸 術 大 学
芸 術 教 育 ・ 学 生 支 援 セ ン タ ー

目 次

第1章 専攻FD活動報告書

1-1 美術学部／美術研究科FD活動報告書	4
日本画	／ 日本画	
油画	／ 油画・版画	
彫刻	／ 彫刻	
芸術学	／ 芸術学	
デザイン	／ デザイン	
陶磁	／ 陶磁	
1-2 音楽学部／音楽研究科FD活動報告書	9
作曲（作曲）	／ 作曲	
作曲（音楽学）	／ 音楽学	
声楽	／ 声楽	
器楽（ピアノ）	／ 鍵盤楽器	
器楽（弦楽器）	／ 弦楽器	
器楽（管打楽器）	／ 管楽器、打楽器	

第2章 授業評価アンケート報告

概要	15
実施授業一覧	20

第3章 FD研修会	26
------------------	-------	----

第 1 章 専攻 F D 活動報告書

美術学部・美術研究科

美術				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
日本画	1 授業評価アンケートの実施	日本画実技Ⅰ～Ⅳの実習で下記質問事項のアンケートを実施(前期・後期) 1.どの程度出席したか 2.意欲的に取り組めたか 3.授業内容への興味関心が高まったか 4.「シラバス」は授業への取組みに役に立ったか 5.授業時間は十分だと感じたか	下記の事項について、問題点を客観的に把握するため ・シラバスと授業内容の相互改善 ・教員・学生相互の能力向上 ・教育環境の質的向上	アンケート結果から見えるもの・個々の学生による自己評価は前年度から継続して客観性に富み、向上への意欲が見られる。一方教員とのコミュニケーションは概ね良好であるが、教員側からの声掛けの度合いを高めていけば、更に良くなると考える。授業環境については、学生主体で教員との問題点共有により最大限整備の努力を続けることが学習効果を高めると考える。
	2 専攻科会議の実施	原則、毎週木曜日の昼食時を(ブラウンバック・ミーティング)とし、案件がある場合、事前に議題を準備、SNSにて共有を図るとともに、短時間で効果的な会議を開催した	下記の事項について、情報を共有し、対応を協議するため ・課題の進捗状況	従来実施してきた、専攻科会議にSNSによる情報共有を取り入れることにより、リアルタイムかつ風通しの良い話し合いができて、問題点共有が可能になった。
	3 茶話会の実施	原則半期に一度、空き教室を使用し、学部・大学院各学年の学生代表と教員全員による懇談会を実施	通常とは違った雰囲気の中で、出来る限り学生の本音を引き出し、教員の対応や教育環境の改善に繋げていく	学生各個人からの、授業に対する思いや問題点など一定の意見を聴取することに成功してきたが、思いやニーズの多様化から、個人面談も併せて取り入れたい。
	4 外部講師による講座の随時開催	下記の視点から課題を把握し、日本画の学びに厚みをつけるため、外部講師を招き、特別講座を実施している ・日本画材料・保存修復の視点 ・造形基礎の視点 ・社会と日本画の接点と位置付けの視点	日本画の基礎・考え方の視野を広げ、学びを深める 多様化する学生のニーズに応える	各講座とも好評であり、学生の積極的な参加態度が見られる。終了後、質疑応答も活発に行われるなど、学生、教員双方にとり刺激になる取り組みであるといえる
油画	1 専攻科会議の実施とカリキュラム改善	・通常専攻科会議は毎週水曜日13:30-15:00に実施(毎月4週目は休み)。 ・出席者:油画専攻常勤教員12名、教育研究指導員(助手長1名)	・授業内容に関する情報共有、意見交換、改善。 ・より良い教育環境や理念、アドミッションポリシー作成への基盤づくり。 ・コロナ禍における授業運営の方法、方針の議論。	・感染予防を前提とし、講評方法ははじめとした授業運営など、引き続き慎重に議論を重ねている。 ・授業内容に関しては、前年度の授業評価アンケート結果を踏まえ、より良い日程や内容になるように油画専攻全教員で協議し、改善をおこなっている。 ・受験生の人数と質を確保するために、学部入試の出題方法や内容について、検討と協議を重ねながら検証している。 ・入試広報活動、大学案内に掲載する内容について、定期的に協議を重ねている。
	2 授業評価アンケートの実施	■油画実技Ⅰ～Ⅳ 油画特別演習Ⅰ～Ⅳの8項目について実施した。(前期、後期末) ■受講した学生についての質問内容 1.出席率。 2.意欲的に取り組めたか。 3.受講後、興味関心が高まったか。 ■授業について質問内容 4.「シラバス」は授業の取組に役立ったか。 5.授業時間は十分だったか。 6.教員の話し方、話すスピードは適切だったか。 7.教員とコミュニケーションはとれたか。 8.現在の力量に合った、適切な指導を受けられたか。 9.教室・設備については適切だったか。 10.専門能力向上に役立ったか。 11.授業全般について総合的に評価すると良い授業だと思いましたが。 *学生が特に良かったと判断した点、要望などを自由記述。	・授業内容、シラバス、カリキュラム、授業期間などの改善。 ・授業内容の向上。 ・学生の専門能力の向上と成果。 ・教員の対応能力の向上。 ・教育研究機関としての施設等の不備調査、改善。	■アンケート結果 ・アンケート1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 10, 11は、各学年とも概ね高評価であった。 ・アンケート4 シラバスについては通年で記載することが多いため(各講座についての内容は授業開始前に詳細を発表している)、授業の直接的な参考にはなりにくい。 ・アンケート9 教室、施設についてのアンケート結果が毎年非常に悪い。 アトリエの狭さや空調、wi-fiの不備などへの不満が多い。 コロナ感染予防の観点から行われる換気を継続する必要がある為、室内の冷暖房が十分に機能しにくい。 ■改善と要望点 ・「アトリエが狭い」「暑い(寒い)」「WiFiがない」など、改善を求める回答が多数あり、アトリエ環境の早期改善が必要である。 アトリエの面積については、今後の予定があるとして、特に、冬の寒さと、WiFiについての改善の無さについては、なぜ対策が少しも進まないのか疑問であり、改善を強く求めたい。
	3 学生との意見交換会	・教員と学生との信頼関係を維持するため、毎月1回、12:05-12:30に学部各学年の代表2名ずつ計8名が集まり、教員との意見交換会を実施している。 ・意見交換会の内容は授業関連以外にも、施設要望、学校生活の様子など幅広く意見交換をしている。	・ハラスメント防止。 ・施設の不備調査と改善。 ・学生間及び学生教員間コミュニケーションの調査。	・これまで同様、アトリエの狭さや空調への不満など設備改善要求が多かった。 ・各学年代表者が同じ場所に集うことで、同学年だけでなく上下間での交流も生まれている。 ・学生と教員の間でのコミュニケーションは適切に維持され、各教員は学生要望にできるだけ応えられるよう、関係する委員会や部署などに要望や改善を年間を通じて報告した。
	4 作品写真アルバムの作成	・学生が授業で制作した作品は、すべてデジタル撮影し、油画サーバーで管理している。 ・紙媒体だけでなく、PCやタブレットを用いてデジタルアーカイブしたデータを教員が閲覧できるようにしている。	・高等美術教育としての資料のアーカイブ化。 ・新たな講座内容や教育研究教材を開発するための資料。 ・講座内容改善のための資料。	・面談や講評時に活用している。 ・デジタル化したことによって、データの保管や二重三重のバックアップ、ウィルス対策などについての対応が必要となっている。
	5 写真講座、文章講座の実施	・写真講座は2年次に実施し、作品ファイルを作成するために必要な絵画作品の撮影技術などの習得を目指している。 ・文章講座は3年次に実施し、自作についての確に文章化するための能力を身につけることを目的としている。	・国際舞台でも通用するプレゼンテーション用の作品ファイルの作成。 ・自作や美術作品等を語るための文章能力とコミュニケーション能力の向上。	・写真講座と文章講座を通じて、ポートフォリオやステートメントを作成する学生が増加し、内容についても質が向上している。 ・大学卒業後、作家活動や社会活動をする上でも、プレゼンテーション能力は非常に重要であるため、今後も講座を継続していく。

美術				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
油画	6 学生ファイルの作成	・学生ファイルとは1年次と2年次の各講座、3年次と4年次のチュートリアル授業及び卒業制作作品などについて学生自身がその内容や成果を記録しておくものである。 ・全在学生のファイルを油画専攻教員室キャビネットに保管しており、常に教員や学生などが閲覧できる。作品写真アルバムと合わせて利用している。	・個々の作品制作の変遷を、年を追って確認できる。 ・学生が継続的な問題意識を持って作品制作に望むための助けになる。	・学生ファイルは学生本人だけでなく、常勤教員や非常勤講師にとっても、作品の変遷を考察、検証できるため有用な資料となっている。
	7 アトリエ・教室等の改善	・油画専攻学生にとって、作品制作が最も重要な勉強方法となる。そのため、アトリエ環境は、そのまま教育研究成果や有意義な講習会や討論会などの指導にも影響を与える。 しかし、現状の施設状況では、「制作スペースの狭さ」「冷暖房機能不足」「自然環境の整備不足による学生生活の安全性が守られていない」「WiFiなどのデジタル関連の未整備」「水場環境の不備」という大きな問題点がある。この問題についての解決策を随時、油画専攻で協議し、各種委員会などで報告している。	・各専攻の中で最も1人当たりの制作環境面積が少ない油画学生に対しての改善と拡充。	・全学年を通じて、アトリエの狭さと設備に対する不満が、アンケート結果や学生との意見交換会などから非常に大きいことが、あらためてわかった。 ・現状施設の重点的改善点 1.制作スペースの確保 2.冷暖房環境の機能強化 3.利用時間の見直し 4.電気容量不足の改善 5.学内WiFi環境の構築 6.水場環境の改善 7.自然環境の整備と安全性確保 上記の重点的改善点は油画専攻だけでは解決できないため、全学的に考えていく必要がある。
彫刻	1 授業評価アンケートの実施	彫刻実技Ⅰ～Ⅳの授業評価アンケートを実施した。	授業に対する学生からの率直な意見を収集し、今後の授業運営に役立てる。	各教員が担当する授業ごとにアンケートを実施し、可能な範囲でアンケート結果を専攻内で共有した。このことにより、専攻全体でのカリキュラムの課題が見えるようになり、問題を共有することができた。
	2 専攻会議の実施	隔週水曜日の13時より、2時間程度実施した。 以下の項目の議題の検討および報告・情報共有を行った。 ①学生・授業関係 ②専攻運営 ③各種委員会	大学運営に関して情報を共有し、諸課題について協議する。学生の状況を把握し、必要な対応をする。	専攻会議の運営は今年度も引き続き円滑に進めることができた。検討が必要な事柄がある場合には、教員間でよく話し合いをした。専攻会議を通じた教員間のコミュニケーションは大変良好であった。
	3 将来計画会議の実施	必要に応じて隔週の水曜日に彫刻専攻会議に続けて実施した。 中長期的な視点から今後の彫刻専攻のあり方や方向性について話し合った。2024年から新彫刻棟で授業が行われる予定であり、それを機に大幅なカリキュラム編成をすることやそれに伴う備品等についても部会を作り検討した。	彫刻専攻の校舎移転に伴うカリキュラムの検討や人員の配置など、彫刻専攻の中期計画について話し合う。	彫刻専攻の校舎移転を見据えた中期的な将来計画についてタイムラインを示し、共通の認識を持つことができた。
	4 学生の研究報告書の活用	各授業毎に学生は研究報告書を提出し、これを専攻事務室でファイリングして教員が閲覧できるようにした。研究報告書には学生の作品の写真、研究テーマ、タイトル、研究の概要や成果が記述されている。	学生が作成した各授業毎の研究報告書を専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにすることで、4年間を通じた学生の取り組みや学習状況を把握する。	研究報告書の作成を通じて、学生は制作過程や制作意図について言葉で伝える力を身につけている。研究報告書は、授業中や講習会ではうまく伝えられなかったことを後から教員に文章で伝えるためのツールにもなっている。教員は研究報告書を通して、学生の授業における理解度を知ることができた。
	5 学生カルテの活用	学生の学習状況その他特記事項について教員がカルテに記入し、専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにした。	各授業の担当教員が記入したカルテを専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにすることで、学生の学習状況を把握する。	カルテは、欠席が多くなったり何気にかけるべきことがあったりする学生について、過去に遡って学生の学習状況を確認することができるものである。学生の状況について、教員間で情報の共有に役立てることができた。
	6 ゲスト講師による講義の実施	教員が推薦する外部講師による講義である「彫刻論」を年に2回実施した。これとは別に、オンラインによる特別講義も実施した。	専任教員とは異なる専門領域の講師等を招聘することで、専門的知識の補完を図り、教育研究に役立てる。	彫刻論講師は、富井大裕講師および粟林隆講師を招聘した。学生と教員双方にとって貴重な内容だった。また今後の授業運営の検討にも役立つ多くの参考になる話を聞くこともできた。
	7 ゲスト講師による講習会の実施	ゲスト講師による講習会を実施した。 院生展の会期中に1名、卒業修了制作展の会期中に5名の講師による講習会を行った。	客員教授あるいは外部から招聘する特別講師による講習会を行うことで、客観的視点に基づいた講評から学ぶ。	客員教授の金井直教授の他に、卒業特別講習会には東京藝術大学の客員教授である米林雄一講師、栗木義夫講師、O Jun講師、藤岡勇人講師を招聘することができた。客観的な視点による講評から多くを学ぶことができただけでなく、教育の在り方についての意見交換も行うことができた。
	8 客員教授による特別講義の実施	金井直客員教授による特別講義を年間3回行った。	近現代彫刻史とその主要なテーマについて学びながら、彫刻領域の諸課題について、学生と教員が共に考える。	下記の日程と内容による金井客員教授の講義が行われた。コロナ禍にあっても、対面での講義を行うことができた。学生の中にはこれらの講義から得たことを参照しながら作品制作を行っている者もあり、とても有意義のある講義であることが確認された。
芸術学	1 授業評価アンケートの実施	前期・後期それぞれ授業評価アンケートを実施した。	客観的に評価を得た上で、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行うため。	アンケート結果は専攻内で共有し、学生のニーズや要望を汲み取るよう心がけた。ユニバを使用したオンライン上でのアンケートの回答率はかなり低く、自由記述欄にも積極的な意見が乏しい傾向にある。学生のニーズを把握するためにアンケートへの回答をさらに呼びかける必要を感じた。
	2 専攻会議の実施	原則として隔週木曜日12-2時間開催する。FDに関しては、教員・学生ともに少人数による教育の利点を活かし、学生一人一人の学習状況等を教員間で共有して必要なサポートについて検討する。あわせて、専攻の今後の方向性を視野にいれながら、カリキュラム内容を検討する。	専攻としての目指すべき方向性を確認しながらカリキュラムを実施し、学生の学習環境等を支援する。	教員の間で学生の状況について情報を共有し、それぞれの担当授業で必要な対応をした。学生に支援が必要な場合は、保健室や学習支援コーディネーター、カウンセラーを紹介した。また、学習上の困難を覚える学生について、保健室・学生支援係と専攻教員で連携し、対応に当たった。

美術				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
芸術学	3	療養休職中教員のバックアップ 教員の一名が休職中のため、非常勤の教員を配備するなど指導体制を整えた。	教育の質の維持。	同一専門領域の非常勤の教員2名(うち1名は今年度から新規雇用)が講義と学生の研究指導を担当した。他の教員も可能な指導を行い、さらに学内の諸委員会の代行を務めた。これらにより学生の指導や学内運営上の空白を埋めることができた。
	4	OBトークの実施 卒業生の中から2名を大学へ呼び、学生生活・就職活動・現在の仕事内容などについて語ってもらう。在学生は全員参加自由とし、質疑応答を含むフリートークを設ける。	学生生活および勉学意識の向上をはかるとともに、卒業後の将来計画への助言を与える。	卒業生2名を11月上旬の夕方から招き、在学生は誰もが参加しやすい時間・場所で実施した。卒業生の一人は芸術活動支援関連、もう一人は文化財保護関連の仕事についている。卒業生2名からは写真を交えた在学中および卒業後の活動についての話があり、在学生から活発な質問が相次いだ。将来の仕事や就職活動、在学中の勉強にしかたに関する質問が多く、在学生の高い関心がうかがえた。今後さまざまな分野の卒業生を招き、活動を継続したい。
デザイン	1	専攻会議の実施 毎週水曜日16:00より定例のデザイン専攻会議を実施する。デザイン専攻教員と教育研究指導員間でFD関連の情報共有を図り授業運営や研究活動に生かす。各教員から授業の実施状況や問題点を議論し授業運営やカリキュラムの改善を図る。実技授業、関連科目についての検討見直しを行う。	デザイン専攻の授業が社会の変化に柔軟に対応した授業運営となるよう、カリキュラムの刷新や充実を図る。教員と教育研究指導員間の情報を共有し、より良い授業が行われるよう検討する。	新たなカリキュラムの状況に即して効果的な授業運営が出来た。デザイン専攻の将来構想に向けて継続的に協議検討を続けることができた。本年度も引き続き新型コロナウイルス感染症に留意し、より慎重なアトリエの使用と授業運営に尽力した。
デザイン	2	新カリキュラムの実施と運営の検討 社会連携プロジェクトチームによる授業の充実をはかる。社会のニーズや問題点を解決するための具体的なプロジェクトの発足は学生にデザインの学習やスキルを、社会との関連性を気づかせ、より身近な現実性のあるデザインのアウトプットを思考させる。R3年度まで協議し計画した新カリキュラムをR4年度1年生を対象に実施を開始する。	社会や時代の変化に柔軟に対応し、社会の課題や問題解決ができる人材の育成を目的とする。基礎から応用に至るデザイン実技と理論構築の力を養い、より専門的かつ実践的な授業を行う中で、様々な状況に対応できる能力を育む。	新型コロナウイルスの感染状況は続いたが、体調管理や検温の確認を徹底し、オンライン授業と対面授業の併用による授業運営の充実をはかった。学生間にも感染状況への適切な対応が浸透し換気や体調管理にも十分に注意を払うことが出来た。不便な状況の中でも一定の授業成果を得られた。R4年度1年生を対象とした新カリキュラムを実施し成果を得た。
デザイン	3	就職・企業説明会の実施 引き続き新型コロナウイルス感染状況により、各企業の起業説明やインターンも慎重かつ適切な対応をせざるを得ず、学生もそれらに徐々に対応していく事が見受けられた。昨年に引き続きオンラインでの企業説明会などを実施され、専攻内や起業間、学生間でもTeamsやzoomでのオンラインの対応も次第に慣れ、有効かつより安全なコミュニケーションが出来るようになった。	コロナ禍の中での企業への対応が適切に行われる事を目的とした。学生の個性や能力を活かし、社会に役立つ人材になれるよう各教員が尽力した。	昨年度に続き、新型コロナウイルスにより、対面による活動を最小限に抑え、慎重に対応する企業が多数あった。この状況に於いては優良企業に内定をもらう学生や優秀な成績を残す学生もあり、頼もしさを感じつつ、ありがたい事でもあった。
デザイン	4	授業評価アンケートの実施 昨年度と同様に学生からの率直な授業評価や感想を得る為、前期、後期それぞれ実技授業、関連科目授業の各授業の事業評価アンケートを行った。	新型コロナウイルス事象が続く状況であるが、例年通り学生からの客観的で率直な授業に対する感想や評価を得ることにより、今後の授業運営や効果的な授業計画に役立てる事を目的とする。	引き続き新型コロナウイルス事象の為、対面による通常の授業は慎重に行われた。昨年に引き続き、教員、学生、教育研究指導員、非常勤講師間で対面を主とし、オンライン授業を組み合わせるなど注意深く、工夫された授業運営が行なわれた。授業評価アンケートでは授業に対する評価は一定の評価があった。
陶磁	1	専攻会議の実施 原則毎週金曜日11時より、実施。FD関連議題は随時行い、教員内の情報共有を図る。 1. 授業の実施状況について各教員から報告、問題点の抽出を行う。 2. 学生の受講姿勢や状況について確認及び情報交換、意欲の向上をはかるための検討を行う。 3. 関連科目についての状況確認及び今後提供する内容について意見交換を行う。 4. 非常勤講師の人選、授業内容や授業時間数の精査。 5. 入試内容の検討。 6. 各参加委員会からの報告・共有・議論	コロナ禍での授業運営の在り方の検討。学生の受講意欲の向上、カリキュラム実施状況の確認。教員全員による学生状況の把握。大学の教育環境の整備に努める。入試内容の検討。カリキュラムの改善。	カリキュラム全体の流れや達成目標について常に検討した。特に、基礎のカリキュラムは、専門領域に別れた後にも大きな影響があるため、内容についてコースを超えた専攻教員皆んなで継続的に協議し向上を図った。2021年度から開始した3専門領域の指導の現状を共有しより効果的な指導を図った。総合選抜入試をはじめ全ての入試を問題なく実施することができた。コロナ禍中、対面オープンキャンパスとWEBオープンキャンパスを成功的に実施することができた。
陶磁	2	授業評価アンケートの実施 授業評価アンケートを実施した。	学生から率直な授業評価や感想を得て、今後の効果的な授業運営やカリキュラム改善に生かす。	達成目標について検討を行い、学生の理解力によって次年度のカリキュラムに反映していくこととした。FDアンケート以外にも自主的なアンケートを実施するなど学生たちの授業に対する要求や授業から得たことを吸い上げることができた。
陶磁	3	教育環境の改善 2022年度から正式にスタートした陶磁専攻3年生以上の学生が選択できる3専門コース(陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コース)に対し各2名の担当教員が協力しカリキュラムの実行。さらにコースを超えた講評など横串つなぎでシナジー効果を創出。	現行の国内外の陶芸を取り巻く環境に即した教育、学生が必要とする授業内容の提供を図る。	陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コースがそれぞれのカリキュラムに対し、学生とのコミュニケーションを密にとりながら精力的に取り組むことができた。著名なクリエーターを新たに非常勤講師として招くことができた。結果学生たちに動機づけができ、意欲的な創作活動に繋げることができた。また、芸術学専攻とメディア専攻と連携し、「音と芸術」に関するレクチャー、学内ワークショップ・フィールドレコーディングを実施しやデザイン専攻と連携し葛屋社長特別講演会を行うなど他先行とのコラボ授業や講演会を行うなど教育における可能性を見出すことができた。

美術				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
陶磁	4 産学共同プログラムの実施	古川美術館(名古屋市千種区)との連携授業の実施。大東亜窯業(株)デザインコンペティションやAtelier Roots、LIXILショールーム名古屋などと産学共同の取り組み。	社会性を持つ現場プロジェクトやコンペティションへの参加、展示会企画・実施により学生たちのものづくりに対するリアルな経験と表現の幅を広げる。	・2022年8月に開催された古川美術館為三郎館でのギャラリーイベントを目指し、学部3年生から大学院生までの約10名が参加し、菓子器の創作を行った。古川美術館において同館所属学芸員から同館の歴史、器とてなしについてレクチャーを受け、その後何度もアイデアや試作品のチェックを受けながら制作に挑んだ。同館喫茶部門での使用と販売と同時に作品展示企画が実現され、観覧者の高評価を得た。 ・大東亜窯業(株)と陶磁専攻が企画した「大東亜窯業デザインコンペティション」では、1年生から博士課程の学生まで10人が参加し48点のデザインが提案され、社内外の評価を得て賞が確定、授賞式が行われた。2023年度にも開催することで合意した。 ・昨年同様Atelier Rootsとはユーザーオブザベーション手法を取り入れ学生たちがデザイン制作した花器を店頭で展示販売することで流通について考える機会となった。 ・LIXILショールーム名古屋と陶磁専攻のコラボで、ショールーム展示コーナーに学生作品を展示することを企画した。参加者の作品が暮らしの新たな価値を考えるきっかけを提供することを望む。4年生から博士課程までの学生有志で参加で学生主導で企画を行っている。2023年5月から10月から2回の実施を計画。
陶磁	5 工房環境の改善	3専門領域のために制作環境を再編し、整備した。	3専門領域の制作環境の整備	「芸術表現コース」が加わったことによる3専門コース(陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コース)の制作環境づくりをレイアウトプランに基づいて実施した。新たなレイアウト環境での制作様子を常に観察・確認し、2023年度に改善・向上を図ることとした。安全な工房運用に欠かせない制作場の整備に、教員、指導員が連携して積極的に取り組んだ。
メディア映像専攻	1 専攻会議の実施	原則毎週水曜日の16時より、2時間30分程度実施している。 ・授業の実施状況について各教員から報告、情報共有を行なっている。 ・学生の受講姿勢について情報交換を行なっている。特に出席、課題提出状況に問題のある学生については、教員間で情報共有を行っている	・授業の実施状況について報告、情報共有 ・学生の受講姿勢について情報交換	教員間での授業と学生の情報共有が進んでいる。
メディア映像専攻	2 「実技科目・関連科目の評価等について」作成	メディア映像専攻全学生を対象として「実技科目・関連科目の評価等について」という文書を作成し、メディア映像専攻に関わる実技科目及び関連科目の出席、課題提出とその評価、進級判定について明確に定め、全学生に告知した。	実技科目及び関連科目の出席、課題提出とその評価、進級判定について明確化し、学生に周知を行う。	概ね学生の理解が進んでいるが、一部の学生にはまだ周知が十分ではないと思われることもあり、引き続き周知を徹底する必要がある。また身体的、精神的に授業に来れない学生がおり、サポートが必要である。

音樂學部・音樂研究科

音楽				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
音楽学	1 部会の実施	原則として、毎週水曜日(昼休みまたは放課後)に部会を行なっている。必要に応じて、メールでの会議も行っている。	学生・院生や授業に関して情報交換を行ない、コース内のさまざまな問題を話し合うため。	学生の問題について教員間で情報を共有し、相談して指導方法を見直したり、授業のやり方を変えたりすることができた。
	2 授業評価アンケートの実施	共通のフォーマットによる「授業評価アンケート」のほかに、個々の教員が担当する授業の性質に合わせて、独自のアンケートを実施している科目がある。	共通フォーマットの授業評価アンケートでは捉えきれない学生の意見をすくいあげ、すぐにフィードバックするため。	アンケートの結果から、教員(非常勤講師含む)の授業準備・指導の工夫が学生にも伝わっていることが分かった。
	3 音楽学コロキウムの実施	この授業は、学生と教員が同じ立場で発表し、意見を交換するオープンな場をめざして開設されたもので、2021年度までは「音楽学総合ゼミ」として実施していたが、2022年度より「音楽学コロキウム」に改編された。内容は音楽学コースの教員による研究発表、学生、院生による研究発表、ゲストスピーカーによる研究発表から成る授業である。音楽学コースの学部1年生から大学院博士後期課程の博士論文提出の準備をしている者までの学生、院生全員と教員全員が参加する。	多彩なゲストスピーカーによる最新の研究発表に触れつつ、教員と学生とがお互いに切磋琢磨するため。	2022年度は学生・院生による複数回の研究発表のほか、音楽学コース教員による講座を1回と招聘講座を2回(小林英樹名誉教授(美術・油画)「『表現の根底にあるアイデンティティ』を考える:セザンヌを中心とした印象派絵画」)「『表現の根底にあるアイデンティティ』を考える:セザンヌの後に展開するピカソとデュシャンの作品」)が行われた。図書館によるデータベース講習会もまた、音楽学コロキウムの枠組みの中で実施した。
	4 複数教員による論文指導	音楽学を専門とする学生にとって必修科目である卒業論文と修士論文の指導に関しては、複数の教員が担当し、集団的指導体制を組んでいる。	専門分野の異なる複数の教員の意見を聞くことにより、より柔軟で独創的な発想を持った学位論文を執筆させるため。	卒業論文5本、修士論文1本が提出された。
	5 学生・院生からの相談への対応、指導の実施	オフィスアワー時間以外にも、学生からの相談には柔軟に対応し、きめ細かい指導を行なっている。	学生が充実した大学生活を送ることができるようにするため。	学生が、心身の健康を保ち、勉学にさらにいそむむことに役立った。
	6 コース紀要の刊行	『愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要:ミクスト・ミュージック』を2006年から刊行し、教員(非常勤講師含む)、大学院生の研究論文、それらに加えて、刊行当該年度の卒業論文、修士論文、博士論文の題目と要旨、音楽学コロキウムおよび特別講座の概要を掲載している。	大学院生、音楽学コース教員(非常勤講師含む)の研究結果、学生の学業の成果を広く知らせるため。	『ミクスト・ミュージック』第18号を刊行した。学位論文の要旨を掲載することは学生にとって励みになると同時に、下級生が研究対象を決める際の参考にもなり、外部に対しては音楽学コースの広報活動にもなっている。
	7 特別講座の開講	特別講座を開催し、公開している。	学生および地域の方々に、すぐれたゲストスピーカーによる最先端の知や芸術の世界に触れてもらうため。	2022年度は民族音楽学を専門とし、主にアメリカの日系社会の音楽について、文化的コンテキストに注目しながら研究されている早稲田みな子氏(国立音楽大学教授)をお招きして実施した。テーマは「アメリカ日系社会の音楽文化」であった(コロナ禍のため学外公開せず)。
音楽	1 専攻部会の開催	毎月2~3回、1回あたり2時間半程度実施。参加者は専任教員6名。主な議題は以下のとおり。 1.各種委員会より依頼のあった懸案事項の検討 2.専攻内での懸案事項の検討 3.専攻の授業と行事の実施に関する事項の検討 4.個々の学生に関する情報の共有と対応 昨年度から引き続き「アンサンブル特講」の活用等、来年度から始まるカリキュラム改定に合わせて見直しを含めた検討を行っている。	・大学および専攻の運営に関わる問題を審議し、音楽専攻としての方針を決定する。 ・学生の受講状況を把握し、学習意欲の向上、カリキュラム実施状況の確認を行い、学生の状況、教員の状況を把握できるようにする。 ・個々の学生に関する情報を部会内で共有し、対応が必要な場合にはこれを速やかに、きめ細かく行う。	・各授業の進捗状況を随時把握し、円滑な授業展開を行なうことが出来た。
	2 授業評価アンケートの実施	前期ならびに後期の終わりに、クラス授業を中心に授業評価アンケートを実施。	学生から評価・意見を参考にし、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行う。	コロナ禍の中、不自由なことも多いがそれでも概ね学生たちは積極的に取り組んだと回答しており、授業の内容にも関心が深かったことがうかがえる。
	3 舞台美術会議の実施(学内外のコラボレーション)	大学オペラ公演に向けて、大学院「オペラ総合演習」担当教員(専任2名、演出担当非常勤講師)ならびに舞台美術担当教員(美術学部教員)、外部関係者による会議を実施。 ●大学オペラ公演の公演方針 ●公演形態 ●具体的な舞台の見取り図を踏まえ、舞台美術プランを決定	●コロナ禍であることを踏まえ、平時以上に安心安全な公演にする。 ●舞台美術のアイデアを具体的なカタチにしていること、かつ演出上の諸問題を舞台上の道具配置等の検討により解決していく。	本年度の演目、モーツァルト作曲のオペラ(いつわりの女庭師)は、コロナ禍の中での公演であったが、キャスト同士のディスタンスをとった演出、バルコニーに配置した合唱、舞台上で合唱など大人数での歌唱の際にはマスク着用での歌唱など、工夫を凝らし、感染対策を行ないながらも、素晴らしい舞台を作り上げることが出来た。
	4 舞台衣裳制作での協力(他大学とのコラボレーション)	学部4年「オペラ研究」において、名古屋学芸大学メディア造形学部ファッション造形学科と協力、学芸大学の学生は舞台衣裳を制作し、本学学生はその衣裳を着けて試演会の上演を実施。双方の大学の学生たちが、衣裳合わせや採寸時に、演出、歌手、衣裳製作側がお互いに意見交換をし、歌唱時に動きやすく、歌いやすく、かつ演出効果、舞台効果を上げる衣裳づくりを目指した。	二大学間での協力により、双方の授業での成果発表の場とする	両大学共に実践的な授業を行なうことが出来、またオペラの内容に沿った衣裳作りや、本格的な衣裳を着けての歌唱など、素晴らしい試演会を行なうことが出来た。引き続きこのようなコラボレーションを続けていきたい。

音楽				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
声楽	5 特別講座の実施	年1回特別講座を実施。学内外の講師によって、演奏会、講演、公開レッスン等を行う。本年度は12月6日に奏楽室にて、三ツ石潤司氏による特別講座を実施。	国内外で活躍する現役歌手の演奏と、その体験談を聴き、学生たちの今後に役立てる。	長年、ヨーロッパの歌劇場でコレペイトールとして活躍され、ウィーン国立音楽大学で教鞭を執られ、長年の功績に対して2009年にオーストリア共和国功労金賞を受賞された三ツ石氏によるこれまでの経験談やコレペイトールという声楽家にとってなくてはならない存在であり、その仕事内容など貴重なお話を聞くことが出来たことは、学生にとって大変有意義なことであった。また実際に声楽とピアノの学生による模擬演奏に対する実践的なレッスンも大変素晴らしいであった。
	1 特別講座開講	スペイン人ピアニスト ホアキン・アテウカロ氏を招いてハーフリサイタル及び公開レッスンを行った。	海外の優れた演奏家の生演奏とマスタークラスを経験することで学生の視野を広げ、感性を養う。	素晴らしい演奏と心のこもったマスタークラスとなり、大変有意義な講座となった。
	2 授業評価アンケート	ピアノ合奏、伴奏法・歌曲、伴奏法・器楽曲、室内楽 について実施した	必修授業への取り組み方を学生自身がどのように捉え、どのような目標をもって臨んでいるか、何を反省しているかを調査し、教育内容の改善に役立てる。	概ね授業について熱心に取り組んでいる学生が多く、満足度も高い。
ピアノ	3 コンサートへの出演	新進演奏家コンサート、愛知県立芸術大学学生によるピアノコンサート、を開催。	教育成果発表、教育内容の向上。ピアノ奏法の研究授業の成果確認。	今年度も中村文化小劇場や天白文化小劇場との共催で「新進演奏家コンサート」を開催し、出演した学生の記憶な経験となった。また、本学と地域社会との連携を継続することができた。
	弦楽器コースでは、実技及び室内楽試験、複数の教員で指導を行うアンサンブル授業、公開講座や特別授業、半期毎の授業アンケート、弦部会等、全てをFD活動としてとらえている。			
	1 個人レッスン 実技試験 室内楽試験 修了演奏	弦楽器コースでは、入学時及び各学年末に師事したい教員の希望を取った上で担当を決定し、週1回マンツーマンで丁寧に指導を行っている。 演奏による試験は、実技(学部2年生以上公開)及び室内楽(全学年公開)を前・後期各1回ずつ行っており、外国人客員教授を含む弦楽器コース専任教員全員と多数の非常勤講師が共に学生の演奏を聴き、採点を行う。 試験を公開とする利点として、試験官以外に多数の学生(聴衆)がいる前で演奏する事で、より緊張感を持つことが出来る点、他の学生の演奏を聴くことで多くを学べる点などが挙げられる。試験の公開や試験後の講評は今後も継続していく予定である。	演奏を聴けば、その学生が担当教員からどのような指導を受けているかがかなり判り、又、担当以外の教員による採点や試験後の講評によって、普段のレッスンとは異なる視点からの意見や解釈等を知る事もでき、学生自身は勿論、担当教員にとっても大変勉強になっている。	入学時より卒業・修了まで、学生一人一人が成長していく様子を弦楽器専任教員全員で見守り、伸び悩む学生に対しては、担当でなくとも必要に応じて助言や指導を行っている。教員全員が各学生の氏名やその演奏を全て把握出来ているのは、規模の大きすぎない本学ならではの利点であり、強味であると言える。 R.4年度も、新型コロナウイルス感染予防対策として換気を徹底した上で、前期実技試験・卒業試験及び修了演奏を公開で行った。
2 アンサンブル系授業	「室内楽」「弦楽合奏」「オーケストラ」等のアンサンブル授業に於いては、効果的に授業を行う為、下記の様な体制で指導を行っている。 〈室内楽〉 学部では、1グループを教員1名が通年で担当し、じっくりと時間を掛けて指導に当たっている。基本的に1グループに対し複数の教員が指導する事は無いが、学部1年次に於いてのみ教員2名という体制を取っており、グループを半分に分け、2名の教員が毎週交代で指導すると共に、他グループのレッスンを見学させている。また室内楽経験の浅い新入生が、複数の教員から多角的な指導を受けると同時に、他グループの授業も見学する事で、アンサンブルの基礎を客観的に学べる形態を取っている。 修了課程に於いては、「室内楽1」「室内楽2」が開講されている。「室内楽1」は、より専門的な指導を目的に、1つのグループに対し弦楽器領域複数の教員が並行して指導を行い、「室内楽2」は、全領域の教員の中から師事したい教員を学生の方から指名し、レッスンを受ける事が出来るという画期的なカリキュラムになっている。 〈弦楽合奏〉 室内楽を大型にしたような緻密且つ音楽的なアンサンブルを目指し、複数の教員で分奏を担当、合奏では指揮者以外の教員も適宜アイデアを出し、助言を行いながら指導を行っている。R.4年度は、管打楽器コースのブルックス・トーン准教授にソリストとしてご参加頂き、学生と共演する形での作品研究もを行い、その成果を定期演奏会で披露した。 〈オーケストラ〉 国内外の第一線で活躍する指揮者のもとで行われる、プロのオーケストラ同様のリハーサルが授業の基本であり、そこへ経験豊かな弦楽器・管打楽器教員が指導スタッフとして加わっている。	複数の教員で授業を行う科目では、学生にとっての利点は勿論のこと、教員同士互いの指導方法やその成果を見る事が出来、自身の授業法改善の参考になっている。	弦楽器コースではアンサンブル教育に非常に力を入れているが、室内楽・弦楽合奏共に、選択履修となる3年次以降も受講希望者は非常に多い。学年が進むにつれ、学生達のアンサンブル能力は明らかに向上し、目に見えて成長していくことから、現在の指導方法が大変効果的である事が分かる。 授業の成果発表としてR.4年度は下記の演奏会を行った。実施した演奏会はいずれも非常に高い評価を得ており、今後も継続していく予定である。 〈室内楽〉 2023年2月24日「第21回室内楽の夕べ」(電気文化会館ザ・コンサートホール) 〈弦楽合奏〉 2023年1月21日「第17回定期演奏会」(三井住友海上しらかわホール) 〈オーケストラ〉 2022年6月18日「オーケストラ特別演奏会」(東海市芸術劇場) 2022年9月23日「愛知県立芸術大学×ACO合同演奏会」(愛知県芸術劇場コンサートホール) 2022年11月17日「崇徳高等学校音楽鑑賞会」(愛知県芸術劇場コンサートホール) 2022年11月25日「第33回定期演奏会」(愛知県芸術劇場コンサートホール) 2023年3月29・30日「愛知県立芸術大学×ACOフレッシュ名曲コンサート」(三井住友海上しらかわホール)	
3 外国人客員教授の招聘、学外講師による講座等	R.4年度も、引き続き長期外国人客員教授としてF.アゴスティーニ氏(Vn.)にご指導頂き、弦楽器専任教員を中心とした室内楽演奏会でも共演頂いた。 2022年9月6日 「室内楽の響演Ⅰ」(電気文化会館ザ・コンサートホール) 2022年9月16・17日 「河口湖音楽と森の美術館演奏会」 2023年3月3日 「室内楽の響演Ⅱ」(電気文化会館ザ・コンサートホール)	通常、指導を受けている教員以外の演奏家・指導者によるレッスンを受講することで、別の視点から多くを学ぶことが出来る。 弦楽器コースでは、学生が年間を通して日本人専任教員と外国人客員教授の両方に隔週で師事することが出来る、独自のハーフシステムを採用している。	左記「室内楽の響演」シリーズ演奏会はいずれも大変好評であったが、その他にも、ルトヴィート・カンタ非常勤講師によるチェロ公開レッスンを行った。特別講師による指導や演奏を聴講し、適宜質疑応答等を行うことは、受講した学生自身は勿論、聴講している学生や教員にとっても大変勉強になり、次年度以降も引き続き行っていく予定である。	

音楽				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
弦楽器	4 専攻会議	教員間の情報共有や授業改善、コロナ感染予防対策等を議題とし、前・後期合わせ13回の部会を行った。更に、メールでも頻りに連絡を取り合い、報告事項の共有や授業を円滑且つ有効に進める為の意見交換等を常に行っている。	専任教員が、全学生の勉学・生活の両面について現状を把握できるようにする。	全学生の受講状況や生活面に関する情報を共有し、担任か否かに関わらず必要に応じて学生の相談に応じる等、全教員が一丸となり、精神面も併せてケアをしながら指導に当たっている。 近年、大学生活の中で精神的バランスを崩す学生が増える傾向にあるが、加えて、長期に亘るコロナ禍の影響で大人数のアンサンブル授業に於いて普段以上にストレスを感じ、授業への出席が難しくなる等、更に注意をはらわなければならないケースが増加している。
	5 授業評価アンケートの実施	前期/室内楽、後期/弦楽合奏授業について、UNIPAシステムを利用したオンラインアンケートを実施した。 回答率は前期/18.2%、後期/18.6%であった。	弦楽器コースが特に力を入れているアンサンブル教育が、学生にとって望ましい形で進められているかどうかを見る。	以前、アンケート用紙を配布・回収する形で実施していた際は回答率がかなり高く、学生の授業に対する感想や、参考となる意見も聞く事が出来、有意義であったが、UNIPAでの実施となって以来、各段に回答率が下がった為、本アンケート結果のみで全てを結論付け、今後の改善策への参考としていくのは少々困難であると言わざるを得ない。 【前期/室内楽】 全員が出席率「100%」と回答、「意欲的に取り組んだか」「専門能力の向上に役立ったか」「総合的に評価するとよい授業だと思うか」「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まったか」の各問いに対して、「強くそう思う」が90%、「ややそう思う」が10%と高い数値になったが、残念ながらこの結果は、非常に意欲的に授業に臨んだ少数の学生のみがアンケートに回答した為と考える方が適切だろう。 「あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか」「教員とコミュニケーションはとれていたか」の問いに対しては「強くそう思う」が80%、「ややそう思う」が20%となったが、「教員の話し方、話すスピードは適切か」に対しては「強くそう思う」が60%に止まり、約半数の40%が「ややそう思う」と答える等、教員側の意識の見直しが必要と思われる部分もあった。 「授業時間は十分と感じたか」の問いでは「強くそう思う」が60%となった一方で、40%は「ややそう思う」と回答。日頃より、学生のレッスン時間延長を希望する声は聞かれ、我々教員も1グループ当たりの授業時間をもう少し長く取ることが出来れば…と感じる時もしばしばあるが、教員数・教室数や授業時間帯が限られている中で、履修希望者は大変多く、実現は難しいのが現状である。しかし、総じてこの授業をとっても有意義であると感じ、ぜひ履修したいと考えている学生が多数である事は間違いない。 「教室・施設について適切であったか」には、80%が「強くそう思う」、20%が「ややそう思う」と答えたものの、コロナ禍での感染予防対策/常時換気の影響による室温及び湿度管理への不満は、昨年に引き続きあるのではないかと推測される(自由記述の記入は特になく、詳細は不明)。 【後期/弦楽合奏】 出席率は「100%出席」「90%出席」を合わせて100%であった。 「意欲的に取り組んだか」「専門能力の向上に役立ったか」「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まったか」「あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか」「授業時間は十分と感じたか」「総合的に評価するとよい授業だと思うか」の問いに対しては、回答者全員が「強くそう思う」或いは「ややそう思う」と回答。 「教員の話し方、話すスピードは適切か」の問いには「強くそう思う」「ややそう思う」が50%ずつであったものの、「教員とコミュニケーションはとれていたか」に対しては、高評価が多い一方で「どちらとも思わない」という回答も13%含まれていた。評価が分かれた原因としては、数名の教員が並行して複数の楽曲指導を行っている為、それぞれの指導方法に差が生じている事が原因として考えられる。このアンケート結果を担当教員間で共有し、より充実した授業を目指して改善点を見つけ出すよう努める。 又、施設については「適切だ」という意見と共に、「どちらとも思えない」が25%含まれており、今年度も引き続きコロナ感染予防対策として常時換気を行わなければならない、室温・湿度管理が難しかった事等が原因ではないかと思われる。 回答率が低かった為断言は出来ないが、授業内容を高く評価する回答が多い一方で、幾つかの改善すべき点も見つかった。担当教員は常に創意工夫を凝らし、より良い授業を目指しているが、学生のアンサンブル能力向上に向けて更に効果的な授業となるよう、教員間の連携をより一層深めながら指導を行っていききたい。
	6 愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団その他	2008年に専任教員5人で「愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団」を結成以来、積極的に活動を行っている。3年間に亘るプラムス室内楽全曲演奏プロジェクト終了後も、客員教授や他専攻教員を交えての演奏会、5月に毎年行っているパッサン公演等、大変意欲的に演奏活動を行い毎回好評を頂いているが、今年度もコロナ禍を鑑み、合唱が不可欠のパッサン公演は中止となった。 「室内楽の響演Ⅰ・Ⅱ(全三回シリーズ)」及び河口湖音楽と森の美術館で行った演奏会は大変好評であった。	教員が音楽に取り組む際の姿勢を、様々な角度から学生に示す。綿密なリハーサルを行い、本番で演奏する姿を間近で見せる事により、普段のレッスンだけでは伝えきれない音楽に対するプロ意識等を学生に教えることが出来る。更に、学生との共演も大変有効な指導手段の一つと考えており、来年度以降も積極的に続けていく予定である。	これらの活動により、教員と学生間は勿論、教員同士でも互いに良い刺激を受け合い、音楽界の情報交換も出来る等、広義的な意味で授業での指導力向上に繋がっていると確信している。

音楽				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
管 打 楽 器	1 管打楽器コース 部会	定期的に管打楽器部会を開催している。時によって変わりますが、木曜日12時から14時半までが多い。この数年間はコロナの影響でオンライン部会も行なった。来年度からはオンラインを減らして、なるべく対面でやりたいと思う。①各委員会の情報共有など部会としての意見を諮る。②木管楽器、金管楽器、打楽器の学生のレベルなど相性を考えながらオーケストラ、ウインドオーケストラの出演者を決める。③苦労をしようとする学生と面談する。④国と法人のコロナ対策の制限が変わると管打楽器コースのルールも考え直す。	コース内のコミュニケーションを効率良くするために定期的に部会をしている。お互いの意見を聞き合ったり、思っている事を自由に出せるような環境を作る事が目的である。	5人の教員の一人一人の意見が大事にされ、明るい雰囲気の中で運営と研究も出来ていると思う。
	2 非常勤講師、コマ数、カリキュラム	毎年非常勤講師に回せるコマ数が減らされ、大変苦労している。管打楽器コースには13種類の専攻楽器が存在している。各楽器の実技レッスンの担当教員に専門家を呼ぶ必要がある。それ以外にもウインドオーケストラの指揮者など室内楽のトレーナーを非常勤講師に指導して頂いている。現状ではコマ数が足りていないのに減少が続く予想。学生の人数を減らす、授業の数を減らす、常勤の先生の負担を増やす、この問題に関して毎月議論している。	少ないコマ数を利用して管打楽器コースの教育レベルを保つ事。	かなり厳しい状況にはなっている。非常勤講師の人数を減らしながら、依頼する講師に与えるコマ数も減らしている。足りていないところを専任がカバーしている。
	3 卒業、修了後の進路に関して	卒業見込みの4年生、修了見込みの大学院2年生の進路予定を把握している。学生のレベル、目標に合わせて卒業後、終了後の面談を行っている。現在新型コロナウイルスの影響でオーケストラ、吹奏楽団の入団オーディションが以前に比べて少なくなっている。そのかわりにメディアを使った新しい職業が増えている。音楽、楽器が続けられるように新しい道を探す必要がある。	卒業生が全員進化した現在の音楽業界で成功できるように一人一人に合った道を見つける事。	今年度の卒業クラスは非常にレベルが高かった。殆どの学生が納得できる進路見つけたように思う。
	4 アンケートの実地	修了する大学院生のアンケートを毎年とっている。内部から上がった学生と学部4年間と大学院の2年間の経験を尋ねる。良かった事と教員へのアドバイスも参考にして教育体制を調整する。外部から入学してきた学生に本校と学部卒業した大学の違いを尋ねる。県芸、管打楽器コースは他の大学と比べてどうか尋ねる。	学生の目線から見ると管打楽器コースの良いところと良くないところを知ることが必要である。	調査の結果で学生の不安と安心感を理解し、上手に対応できたと思う。

第2章 授業評価アンケート

令和4年度 授業評価アンケート

1. はじめに

本学では、大学の教育・研究の充実を図るとともに、教員の授業内容、教育方法の組織的な改善を行い、教育の質的向上を図るため、全ての学部及び研究科において、ファカルティ・ディプロップメント（FD）を実施しています。その一環として、両学部の授業について、受講した学生の声を聞き、今後の授業づくりの参考とするため、「授業評価アンケート」（以下「アンケート」）を導入しました。

平成21年度から、FD専門委員会においてアンケートの設問内容を一新し、「講義系授業」と本学の特長である「実習系授業」の2種類のアンケートで実施しています。

この2種類のアンケート以外にも教員が独自にアンケートを作成・実施し、学生の声を授業づくりの参考としています。

2. アンケートの実施

前期と後期の年2回実施をしました。

前期は、令和2年7月13日（月）から7月31日（金）の2週間、後期は令和3年1月12日（火）から2月12日（金）の5週間の期間で担当教員の任意の日で実施しています。また、アンケート実施の留意点として、アンケートは匿名で行っており、大学の教育支援ポータルサイト UNNIVERSAL PASSPORT のアンケート機能にて実施し、学生が自由に回答できるように配慮しています。

実施対象の授業ですが、昨年度と同様に履修登録者5名以下を除く授業からFD委員の協力のもと各専攻・コースで実施授業を選択し実施しました。

実施方法は、FD専門委員会において毎回協議しています。さらに、学内の関係各位への周知活動を継続しています。

3. アンケートの報告

アンケートは実施後、学生が大学事務局に提出し、事務局において集計を行いました。集計は、回答者全員分の集計結果を担当教員に配付し、本学専任教員は、集計結果をもとにFD報告書にて専攻の授業評価アンケート全体の報告を作成しています。

授業評価アンケート（講義）【フォーマット】

- ・このアンケートは授業改善を目的としています、そのため、率直な回答をお願いします。
- ・アンケートの集計結果だけを担当教員につたえます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与える事は一切ありません。

あなたはこの授業のどの程度出席しましたか

選択必須

- 100%
- 90%くらい
- 80%くらい
- 70%くらい
- 60%以下

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

選択必須

- ほぼ時間通り
- 延長することが多い
- 開始が遅いことが多い
- 早く終わることが多い
- よくわからない

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員の説明のしかたはわかりやすかったですか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教室・設備については適切でしたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：この授業で要望など改善して欲しい点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください。（無回答可）

自由記述：新型コロナウイルス感染予防対応下で、この授業を受けて感じたことがあれば書いてください。（無回答可）

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

回答

授業評価アンケート（実習）【フォーマット】

- ・このアンケートは授業改善を目的としています、そのため、率直な回答をお願いします。
- ・アンケートの集計結果だけを担当教員につたえます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与える事は一切ありません。

あなたはこの授業のどの程度出席しましたか

選択必須

- 100%
- 90%くらい
- 80%くらい
- 70%くらい
- 60%以下

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

授業時間は十分だと感じましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

あなたの現在の力量にあった、適切な指導を受ける事ができましたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

教室・設備については適切でしたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：この授業で要望など改善して欲しい点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください。（無回答可）

自由記述：新型コロナウイルス感染予防対応下で、この授業を受けて感じたことがあれば書いてください。（無回答可）

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

回答

2022年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者合計	開講曜日	時限	講義/実技
彫刻	彫刻実技ⅠA	(金属)	村尾 里奈	10			実習
	彫刻実技ⅠA	(塑造Ⅰ)	竹内 孝和	10			実習
	彫刻実技ⅡA	(石彫)	中谷 聡	10			実習
	彫刻実技ⅡA	(塑造Ⅱ)	森北 伸	10			実習
	彫刻実技ⅢA	(神田ゼミ)	神田 每実	1			実習
	彫刻実技ⅢA	(高橋ゼミ)	高橋 伸行	4			実習
芸術学	彫刻実技ⅢA	(森北ゼミ)	森北 伸	5			実習
	芸術学基礎実技1A		小西 信之	7			実習
	芸術学基礎実技2A		小西 信之	7			実習
	美学A		金子 智太郎	127	月曜日	3	講義
	日本美術史概説A		本田 光子	105	火曜日	4	講義
	西洋美術史概説A		小野 康子	99	水曜日	4	講義
	現代アート概説A		小西 信之	109	水曜日	5	講義
デザイン	美学特講Ⅰ		金子 智太郎	43	月曜日	5	講義
	日本美術史特講Ⅰ		本田 光子	59	月曜日	4	講義
	デザイン・工芸論A		春田 登紀雄	46	金曜日	3	講義
	デザイン特講A		夏目 知道	36	水曜日	3	講義
陶磁	写真ゼミ	(隔週)	石井 晴雄	22	金曜日	4	実習
	グラフィックゼミ	(隔週)	佐藤 直樹	31	金曜日	4	実習
	陶磁原料学Ⅲ		田上 知之介	10	月曜日	4	講義
	陶磁史ⅠA		田上 知之介	11	木曜日	4	講義
	陶磁論A		田上 知之介	10	金曜日	3	講義
メディア映像	陶磁実技ⅠA		田上 知之介	10			実習
	陶磁実技ⅡA		田上 知之介	10			実習
関連	メディア映像基礎実技A		森 真弓	10			実習
	デザイン史A	(隔週・奇数週)	森 仁史	65	金曜日	4~5	講義
	図学/図学及び遠近法		大島 淳子	49	木曜日	5	講義
	美術解剖学	(隔週・偶数週)	布施 英利	113	金曜日	3~4	講義

2022年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	授業コード	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者合計	開講曜日	時限	講義/実習
日本画	37111401	日本画実技ⅠB		清水 由朗	12			実習
	37111601	日本画実技ⅡB		岩永 てるみ	10			実習
	37111801	日本画実技ⅢB		吉村 佳洋	11			実習
	37112001	日本画実技ⅣB(卒業制作を含む。)		岡田 真治	12			実習
油画	37120101	油画実技Ⅰ		岩間 賢	27			実習
	37120201	油画実技Ⅱ		岩間 賢	25			実習
	37120301	油画実技Ⅲ		岩間 賢	27			実習
	37120401	油画実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		岩間 賢	25			実習
	37120501	油画特別演習Ⅰ		岩間 賢	27			実習
	37120601	油画特別演習Ⅱ		岩間 賢	25			実習
	37120701	油画特別演習Ⅲ		岩間 賢	26			実習
	37120801	油画特別演習Ⅳ		岩間 賢	25			実習
彫刻	37130801	彫刻実技ⅠB	(木彫)	彫刻専攻教員	11			実習
	37130801	彫刻実技ⅠB	(樹脂)	彫刻専攻教員	11			実習
	37131001	彫刻実技ⅡB	(造形)	彫刻専攻教員	10			実習
	37131001	彫刻実技ⅡB	(テラコッタ)	彫刻専攻教員	10			実習
	37130301・371312	彫刻実技Ⅲ・ⅢB	(中谷ゼミ)	中谷 聡	4			実習
	37130301・371312	彫刻実技Ⅲ・ⅢB	(村尾ゼミ)	村尾 里奈	4			実習
	37130301・371312	彫刻実技Ⅲ・ⅢB	(竹内ゼミ)	竹内 孝和	2			実習
	37130401	彫刻実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		彫刻専攻教員	9			実習
37260403	材料研究		丸山 光哉	10			実習	
芸術学	37140101	芸術学総合研究Ⅰ		小西 信之	7	月曜日	2	実習
	37140201	芸術学総合研究Ⅱ		小西 信之	7	月曜日	2	実習
	37140301	芸術学総合研究Ⅲ		小西 信之	6	月曜日	2	実習
	37143601	芸術学基礎実技ⅠB		小西 信之	6			実習
	37143801	芸術学基礎実技ⅡB		小西 信之	7			実習
	31000301	美学B		金子 智太郎	114	月曜日	3	講義
	34100201	日本美術史概説B		本田 光子	90	火曜日	4	講義
	34100401	西洋美術史概説B		小野 康子	90	水曜日	4	講義
	34100801	現代アート概説B		小西 信之	92	水曜日	5	講義
	37280901	美学特講Ⅱ		秋庭 史典	11	木曜日	5	講義
37281201	西洋美術史特講Ⅱ		小野 康子	17	水曜日	5	講義	
37282601	東洋美術史特講Ⅱ	(隔週)	平岡 三保子	72	木曜日	3	講義	
陶磁	37160901	陶磁実技ⅠB		田上 知之介	10			実習
	37161101	陶磁実技ⅡB		田上 知之介	10			実習
	37160402	陶磁実技Ⅳ(卒業制作を含む。)	(デザイン)	田上 知之介	2			実習
	37160403	陶磁実技Ⅳ(卒業制作を含む。)	(芸術表現)	梅本 孝征	4			実習
	37160401	陶磁実技Ⅳ(卒業制作を含む。)	(陶芸)	佐藤 文子	4			実習
デザイン	37270201	デザイン・工芸論B		春田 登紀雄	35	金曜日	3	講義
	37270501	デザイン特講B		夏目 知道	42	水曜日	3	講義
	37271601	Webデザイン基礎	(隔週)	森 真弓	18	金曜日	4	実習
	37271901	立体空間ゼミ	(隔週)	水津 功	28	金曜日	4	実習
メディア映像	34201301	メディア映像史		関口 敦仁	10	金曜日	3	講義
	37170201	メディア映像基礎実技B		森 真弓	10			実習
	37170901	メディア映像演習A		有持 旭	10			実習
関連	34201201	デザイン史B	(隔週・奇数週)	森 仁史	50	金曜日	4	講義
	37270601	図学/図学及び遠近法		大島 淳子	49	木曜日	5	講義
	37290101	美術解剖学	(隔週・偶数週)	布施 英利	113	金曜日	3	講義

2022年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

専攻・コース	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者数	開講曜日	時間	講義/実技
作曲・学部	ソルフェージュA		安野 太郎 他	103	月	1~2	講義
	ソルフェージュB		安野 太郎 他	10	月	1~2	講義
	ソルフェージュC		安野 太郎 他	83	月	1~2	講義
	ソルフェージュD		安野 太郎 他	7	月	1~2	講義
	キーボードハーモニーA		小井 洋明	19	火曜日	2	実習
	楽曲研究A		倉地 佑奈	19	水曜日	2	実習
	楽曲分析ⅠA		アム セチュン トニー	9	水曜日	1	実習
	楽曲分析ⅡA		久留 智之	4	火曜日	4	実習
	和声ⅠA		岩本 渡	17	火曜日	5	実習
	和声ⅠA		遠藤 秀安	17	火曜日	1	実習
	和声ⅠA		山本 裕之	22	火曜日	1	実習
	和声ⅠA		小林 聡	25	火曜日	1	実習
	和声ⅠA		久留 智之	17	火曜日	1	実習
	和声ⅡA		成本 理香	18	火曜日	2	実習
	和声ⅡA		遠藤 秀安	19	火曜日	2	実習
	和声ⅡA		山本 裕之	12	火曜日	2	実習
	和声ⅡA		鈴木 宏司	24	火曜日	2	実習
	和声ⅡA		久留 智之	10	火曜日	2	実習
	楽式論A		高山 葉子	22	水曜日	4	講義
	楽式論A		高山 葉子	17	水曜日	5	講義
	楽式論A		武野 晴久	18	水曜日	3	講義
	対位法A		岩本 渡	15	火曜日	4	講義
	対位法A		小櫻 秀樹	16	火曜日	4	講義
対位法A		小井 洋明	22	火曜日	4	講義	
コンピュータ音楽A		アム セチュン トニー	34	火曜日	1	講義	
音楽学・学部	西洋音楽史概説A		七條 めぐみ	107	火曜日	3	講義
	音楽史特講b		畑野 小百合	55	水曜日	2	講義
	音楽特講a		白井 史人	44	金曜日	2	講義
	音楽特講b		エドガー・ポーブ	13	水曜日	2	講義
	楽書講読(英)ⅠA・ⅡA		エドガー・ポーブ	32	水曜日	1	講義
声乐・学部	オペラ基礎A		磯田 有香	29	木曜日	2	実習
	オペラ重唱A		森 寿美	29	火曜日	4	実習
	合唱Ⅰ~ⅢA	(女)	永 ひろこ	66	金曜日	5	実習
	合唱Ⅰ~ⅢA・重唱A	(男)	辻 博之	51	金曜日	2	実習
	合唱A		永 ひろこ	61	月曜日	3~4	実習
	音楽芸術言語(伊語)ⅠA		ロムアルド・パローネ	10	火曜日	4	講義
	音楽芸術言語(独語)ⅠA		マーティン・ヴィルヘルム・ニース	10	火曜日	1	講義
声乐・大学院	重唱		辻 博之	9	金曜日	3	実習
ピアノ・学部	ピアノ合奏A		掛谷 勇三	24			実習
	伴奏法・歌曲A		松川 儒	25	金曜日	3	実習
	伴奏法・器楽曲A		中尾 純	24	水曜日	1	実習
弦・学部	室内楽(弦)Ⅰ~ⅣA		桐山 建志	55	木曜日	1	実習
管打・学部	管楽合奏Ⅰ~ⅣA・A		矢澤 定明	100	水曜日	3~5	実習
	管打学基礎ⅠA		井上 圭	20	金曜日	2	実習
	管打学基礎ⅡA		杉浦 邦弘	20	金曜日	2	実習
	合奏A		長瀬 正典	40	木曜日	3	実習
	室内楽(管打)ⅠA		倉田 寛	20	木曜日	1	実習
	室内楽(管打)ⅡA		倉田 寛	20	木曜日	1	実習
	室内楽(管打)ⅢA		倉田 寛	23	木曜日	2	実習
	室内楽(管打)ⅣA		倉田 寛	22	木曜日	2	実習
	オーケストラⅠ~ⅣA・A	(管打楽器)	橋本 岳人	97	金曜日	3~5	実習
管打・大学院	室内楽1(管楽器領域)A		深町 浩司	7	木曜日	2	実習

2022年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

専攻・コース	授業コード	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者数	開講曜日	時間	講義/実技
作曲・学部		ソルフェージュ		作曲コース教員	178	月曜日	1・2	講義
		38117301	コンピュータ音楽B	アム セチュン トニー	15	火曜日	1	講義
		38104902	和声ⅠB	遠藤 秀安	17	火曜日	1	実習
		38109901	対位法B	岩本 渡	13	火曜日	4	講義
		38104901	和声ⅠB	岩本 渡	17	火曜日	1	実習
		38109702	楽式論B	高山 葉子	11	水曜日	5	講義
		38109701	楽式論B	高山 葉子	22	水曜日	4	講義
		38116901	キーボードハーモニーB	小井 洋明	15	火曜日	2	講義
		38109903	対位法B	小井 洋明	24	火曜日	4	講義
		38109902	対位法B	小櫻 秀樹	11	火曜日	4	講義
		38105101	和声ⅡB	成本 理香	15	火曜日	2	実習
		38109703	楽式論B	武野 晴久	17	水曜日	3	講義
		38105104	和声ⅡB	鈴木 宏司	24	火曜日	2	実習
音楽学・学部		34200401	西洋音楽史概説B	七條 めぐみ	114	火曜日	3	講義
		38105301・38105501	楽書講読(英)ⅠB・ⅡB	エドガー・ポーブ	22	水曜日	1	講義
		38117901	音楽史特講a	小沢 優子	57	金曜日	1	講義
		38105701	楽書講読(独)B	小沢 優子	10	金曜日	2	講義
		38117801	オペラ総論	森本 頼子	74	水曜日	2	講義
	38119001	ポピュラー音楽概論	東谷 護	52	水曜日	3	講義	
声楽・学部		38122601	音楽芸術言語(仏語)ⅠB	フロラン・ベリエ	4	月曜日	2	講義
		38122801	音楽芸術言語(仏語)ⅡB	フロラン・ベリエ	2	月曜日	2	講義
		38122201	音楽芸術言語(独語)ⅠB	マーティン・ヴィルヘルム・ニアス	10	火曜日	1	講義
		38122401	音楽芸術言語(独語)ⅡB	マーティン・ヴィルヘルム・ニアス	3	火曜日	2	講義
		38121801	音楽芸術言語(伊語)ⅠB	ロムアルド・パローネ	8	火曜日	2	講義
		38122001	音楽芸術言語(伊語)ⅡB	ロムアルド・パローネ	7	火曜日	4	講義
		38107701・38107901	合唱ⅠB～ⅢB	(女) 永 ひろこ	68	金曜日	5	実習
		38107702・38107902	合唱ⅠB～ⅢB・重唱B	(男) 桑原 裕介	53	金曜日	2	実習
ピアノ・学部		38701501	オペラ研究B	森川 栄子	34	木曜日	3	実習
		38109501	ピアノ合奏B	掛谷 勇三	26			実習
		38110301	伴奏法・器楽曲B	掛谷 勇三	24	水曜日	1	実習
弦・学部	38111501・38111701	弦楽合奏ⅠB～ⅣB		福本 泰之	42	水曜日	3～5	実習
管打楽器・学部		38115701	管打学基礎ⅠB	井上 圭	20	金曜日	2	実習
		38113102・38113302	オーケストラⅠB～ⅣB・B	(管打楽器) 橋本 岳人	94	金曜日	3～5	実習
		38115901	管打学基礎ⅡB	杉浦 邦弘	20	金曜日	2	実習
		38124701・38124901	室内楽(管打)ⅠB～ⅣB	倉田 寛	85	木曜日	1～2	実習
		38114901・38115101	管楽合奏ⅠB～ⅣB・B	新田 ユリ	94	水曜日	3～5	実習

2022年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	教員氏名	合計	開講曜日	時間	講義/実技
哲学A		内藤 理恵子	50	金曜日	3	講義
外国文学A		数森 寛子	29	水曜日	4	講義
日本史A		勝亦 貴之	28	木曜日	4	講義
西洋史A		小島 崇	32	木曜日	5	講義
心理学A		三宮 敦生	75	水曜日	5	講義
人類学A		竹野 富之	29	木曜日	4	講義
数学A		加納 成男	50	月曜日	5	講義
基礎物理学A		三浦 裕一	17	火曜日	4	講義
異文化コミュニケーションA		井上 彩	41	月曜日	5	講義
社会学ⅠA		石橋 康正	66	金曜日	4	講義
社会学ⅡA		石橋 康正	48	金曜日	5	講義
宗教学A		内藤 理恵子	53	金曜日	4	講義
西洋の古典文芸		水野 留規	53	火曜日	5	講義
コンピューター基礎Ⅱa		清道 正嗣	36	火曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱa		鈴木 剛	33	木曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱa		清道 正嗣	27	火曜日	4	講義
コンピューター基礎Ⅱb		鈴木 剛	33	木曜日	4	講義
西洋演劇論		大塚 直	48	水曜日	4	講義
基礎生物学A		清道 正嗣	19	月曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅲ		清道 正嗣	36	月曜日	5	講義
身体運動演習ⅠA・ⅠB		幸田 律	25	木曜日	4	実習
身体運動演習ⅠA		武山 祐樹	30	木曜日	5	実習
身体運動演習ⅠA		山本 祐実	19	木曜日	3	実習
身体運動演習ⅠA		小野 昌子	17	水曜日	5	実習
スポーツ・健康科学A		石垣 享	29	水曜日	4	実習
基本体育A		石垣 享	29	火曜日	3	実習
基本体育A		石垣 享	29	火曜日	4	実習
基本体育A		石垣 享	30	火曜日	5	実習
英語初級ⅠA		ナイレ・アン・キーナン	53	月曜日	4	講義
英語初級ⅠA		ナイレ・アン・キーナン	24	月曜日	3	講義
英語初級ⅡA		ナイレ・アン・キーナン	32	水曜日	2	講義
英語初級ⅡA		井上 彩	32	水曜日	3	講義
英語初級ⅡA		木下 薫	28	水曜日	3	講義
英語中級ⅠA		赤塚 麻里	27	月曜日	3	講義
英語中級ⅠA		井上 彩	30	月曜日	4	講義
英語中級ⅠA		赤塚 麻里	28	月曜日	4	講義
英語中級ⅡA		ナイレ・アン・キーナン	78	水曜日	3	講義
英語中級ⅡA		スミス マット	13	木曜日	3	講義
英語上級ⅡA		スミス マット	12	木曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅠA		大塚 直	41	月曜日	3	講義
ドイツ語初級ⅠA		橋本 亜季	48	月曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅡA		大塚 直	37	水曜日	2	講義
ドイツ語初級ⅡA		山本 弘之	38	水曜日	3	講義
ドイツ語中級ⅠA		大塚 直	30	火曜日	4	講義
ドイツ語中級ⅡA		シュトラール ヤン ゲリット	22	火曜日	3	講義
フランス語初級ⅠA		フロラン・ペリエ	21	月曜日	4	講義
フランス語初級ⅠA		数森 寛子	12	月曜日	3	講義
フランス語初級ⅡA		フロリアン・エルゴット	12	水曜日	4	講義
フランス語初級ⅡA		フロリアン・エルゴット	30	水曜日	3	講義
イタリア語初級ⅠA		水野 留規	22	月曜日	5	講義
イタリア語初級ⅠA		ロムアルド・パローネ	29	月曜日	3	講義
イタリア語初級ⅡA	(音楽)	パヴェッテ・マシミアノー	40	水曜日	2	講義
イタリア語初級ⅡA	(美術)	ロムアルド・パローネ	11	火曜日	3	講義
イタリア語中級ⅡA		パヴェッテ・マシミアノー	28	水曜日	3	講義
美術科教育法B		小泉 卓	18	木曜日	5	講義
音楽科教育法B		柴田 篤志	64	月曜日	4	講義
道德教育指導論	(美術・音楽)	三品 陽平	36	月曜日	3	講義
特別活動論	(美術・ピアノ)	清水 克博	63	木曜日	3	講義
特別活動論	(音楽)	清水 克博	58	木曜日	4	講義
教育相談	(音楽)	日下 美輝子	64	月曜日	3	講義
教育原理	(美術・ピアノ)	三品 陽平	51	水曜日	5	講義
教育原理	(音楽)	三品 陽平	65	火曜日	4	講義
教育方法・総合的な学習の時間の指導論	(美術・ピアノ)	宮地 祐司	50	火曜日	5	講義
博物館概論		田中 善明	25	水曜日	4	講義
博物館情報・メディア論		鯨井 秀伸	24	水曜日	3	講義
博物館教育論		藤島 美菜	39	木曜日	4	講義
考古学		長田 友也	27	木曜日	3	講義

2022年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	教員氏名	合計	開講曜日	時間	講義/実技
外国文学B		内田 智秀	46	水曜日	4	講義
日本史B		勝亦 貴之	31	木曜日	4	講義
西洋史B		小島 崇	30	木曜日	5	講義
心理学B		三宮 敦生	76	水曜日	5	講義
人類学B		竹野 富之	49	木曜日	4	講義
数学B		加納 成男	54	月曜日	5	講義
基礎物理学B		三浦 裕一	15	火曜日	4	講義
身体運動演習ⅠA～ⅡB		幸田 律	7	木曜日	4	実習
身体運動演習ⅠA～ⅡB		小野 昌子	21	水曜日	5	実習
身体運動演習ⅠA		武山 祐樹	34	木曜日	5	実習
スポーツ・健康科学B		石垣 享	17	水曜日	4	実習
自由研究ゼミナールⅠ		石垣 享	17	木曜日	4	講義
自由研究ゼミナールⅠ		水野 留規	16	月曜日	4	講義
自由研究ゼミナールⅡ		石垣 享	18	木曜日	5	講義
異文化コミュニケーションB		井上 彩	37	月曜日	5	講義
社会学ⅠB		石橋 康正	31	水曜日	4	講義
社会学ⅡB		石橋 康正	38	水曜日	5	講義
外国文化史		水野 留規	58	火曜日	5	講義
基本体育B		石垣 享	15	火曜日	3	実習
基本体育B		石垣 享	19	火曜日	4	実習
基本体育B		石垣 享	30	火曜日	5	実習
基礎生物学B		清道 正嗣	15	月曜日	3	講義
芸術と諸科学	(隔週)	大塚 直	46	水曜日	4～5	講義
コンピューター基礎Ⅰ		大塚 麻里子	35	月曜日	4	講義
コンピューター基礎Ⅰ		大塚 麻里子	33	月曜日	5	講義
コンピューター基礎Ⅱc		清道 正嗣	31	火曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱb		清道 正嗣	31	火曜日	4	講義
コンピューター基礎Ⅱb		鈴木 剛	30	木曜日	3	講義
英語初級ⅠB		ナイレ・アン・キーナン	53	月曜日	4	講義
英語初級ⅠB		ナイレ・アン・キーナン	26	月曜日	3	講義
英語初級ⅠB		高木 和美	22	月曜日	4	講義
英語初級ⅡB		ナイレ・アン・キーナン	33	水曜日	2	講義
英語初級ⅡB		井上 彩	32	水曜日	3	講義
英語初級ⅡB		木下 薫	31	水曜日	3	講義
英語中級ⅠB		赤塚 麻里	29	月曜日	3	講義
英語中級ⅠB		井上 彩	26	月曜日	4	講義
英語中級ⅠB		赤塚 麻里	28	月曜日	4	講義
英語中級ⅡB		ナイレ・アン・キーナン	72	水曜日	3	講義
ドイツ語初級ⅠB		大塚 直	40	月曜日	3	講義
ドイツ語初級ⅠB		橋本 亜季	41	月曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅡB		大塚 直	27	水曜日	2	講義
ドイツ語初級ⅡB		山本 弘之	31	水曜日	3	講義
ドイツ語中級ⅠB		大塚 直	25	火曜日	4	講義
ドイツ語中級ⅡB		シュトラール ヤン ゲリット	15	火曜日	3	講義
フランス語初級ⅠB		フロラン・ペリエ	19	月曜日	4	講義
フランス語初級ⅠB		教森 寛子	10	月曜日	3	講義
フランス語初級ⅡB		フロリアン・エルゴット	11	水曜日	4	講義
フランス語初級ⅡB		フロリアン・エルゴット	19	水曜日	3	講義
イタリア語初級ⅠB		水野 留規	17	月曜日	5	講義
イタリア語初級ⅠB		ロムアルド・パローネ	31	月曜日	3	講義
イタリア語初級ⅡB	(音楽)	バベッテ・マシミアアーノ	37	水曜日	2	講義
イタリア語中級ⅡB		バベッテ・マシミアアーノ	24	水曜日	3	講義
教職入門	(音楽)	三品 陽平	65	火曜日	4	講義
教職入門	(美術・ピアノ)	三品 陽平	61	月曜日	5	講義
美術科教育法A		杉林 英彦	26	金曜日	4	講義
道德教育指導論	(音楽)	三品 陽平	50	火曜日	5	講義
音楽科教育法A		柴田 篤志	77	月曜日	5	講義
美術科教育法C		杉林 英彦	16	金曜日	4	講義
音楽科教育法C		柴田 篤志	64	月曜日	4	講義
教育相談	(美術・ピアノ)	日下 美輝子	52	月曜日	3	講義
教育方法・総合的な学習の時間の指導論	(音楽)	宮地 祐司	58	火曜日	5	講義
生涯学習概論		松野 修	25	火曜日	4	講義
博物館経営論		田中 善明	19	水曜日	4	講義
博物館資料論		宮永 郁恵	21	火曜日	3	講義
博物館資料保存論		長屋 菜津子	18	金曜日	3	講義
博物館展示論		北谷 正雄	14	金曜日	4～5	講義
教育心理学	(音楽)	三宮 敦生	62	火曜日	3	講義
教育心理学	(美術・ピアノ)	三宮 敦生	64	水曜日	4	講義

第3章 FD 研修会

令和4年度 FD 研修会

(1) はじめに

愛知県立芸術大学では、大学教員の教育能力を高めるため教育課題に対応した研修会を開催した。課題として、2016年に「障害を理由とする差別の解消に関する法律(通称:障害者差別解消法)」が施行、国公立大学では「合理的配慮の提供」が義務付けられたことにより、学内での学生対応が多岐にわたるようになったことがあげられたため、今回は、日本福祉大学の澤田佳代氏をお招きし、“大学教育における修学支援(合理的配慮)の取組みについて”ご講演いただくとともに、情報交換を行った。

(2) 開催概要

日程：令和5年1月12日(木) 14時から16時まで

場所：講義棟第1講義室

講師：日本福祉大学 キャンパスソーシャルワーカー 澤田 佳代 氏 (学生支援相談員チーフ)

テーマ：大学教育における修学支援(合理的配慮)の取組みについて

(3) 参加者数

教員26名、職員9名の計35名が参加した。